

議 事 日 程

令和8年7月1日(水)
午前10時開議

諸般報告

日程第1 第47号議案から第56号議案まで(10件) および報告第21号から報告第42号まで(22件)

(各議案に対する質疑および県政全般にわたる質問)

発 言 者

発 言 順 序

- (1) 後 藤 正 邦 議 員
- (2) 渡 辺 竜 彦 議 員
- (3) 野 田 哲 生 議 員
- (4) 中 村 綾 菜 議 員
- (5) 畑 孝 幸 議 員
- (6) 酒 井 秀 和 議 員
- (7) 堀 居 哲 郎 議 員
- (8) 大 和 久 米 登 議 員
- (9) 南 川 直 人 議 員

第443回定例会一般質問発言通告一覧(1日目)

7月1日(水)

会派名	氏名	説明を求め る者の職・氏名	発言要旨	質問 時間帯	TV放映 時間帯
自民党 福井県議会	後藤正邦 〔分割〕	知事および 関係部局長	1 一乗谷朝倉氏遺跡について (1)遺跡の世界遺産登録について (2)観光誘客の方策と遺跡付近の交通問題への対処について 2 自転車の通行できる道路などの整備について (1)自転車の通行できる歩道・標識などの整備と現地調査について (2)既設道路への自転車通行帯等の整備と今後の道路設計について 3 福井大学連合教職大学院と連携した教員研修について 4 その他	10:00 10:30	FBC 10:00
自民党 福井県議会	渡辺竜彦 〔分割〕	知事および 関係部局長	1 エンゼルランドふくいについて 2 畜産農家への支援について 3 線状降水帯発生時における河川（九頭竜川下流域）の治水対策 4 その他	10:30 11:00	11:00
民 主 み ら い	野田哲生 〔分割〕	知事および 関係部局長	1 地域未来基金と地場産業振興について 2 福井県の観光政策の方向性について 3 高齢者政策について (1)シニアチャレンジ応援事業からの多様な就労機会の創出 (2)高齢者生活支援 4 自転車通行空間の整備について 5 その他	11:00 11:40	
越前若狭の会	中村綾菜 〔分割〕	知事および 関係部局長	1 世界とつながり、共に育つ教育へ 2 福祉のアップデート～地域共生社会への転換～ 3 宇宙産業を福井の次なる基幹産業へ 4 その他	11:40 12:20	
休 憩 (60分)					
自民党 福井県議会	畑 孝幸 〔一括〕	知事および 関係部局長	1 人口減少社会について 2 インフラ整備について 3 鳥獣害対策・森林整備について 4 SNSについて 5 その他	13:20 14:00	
自民党 福井県議会	酒井秀和 〔一括〕	知事および 関係部局長	1 人材(財)育成・発掘の成果と今後について 2 県都グランドデザインについて 3 福井の農業推進について 4 その他	14:00 14:40	
休 憩 (15分)					
ふくいの党	堀居哲郎 〔分割〕	知事および 関係部局長	1 嶺南地域における児童相談・一時保護体制の強化について 2 不妊治療およびプレ妊活健診における地域格差の是正について 3 その他	14:55 15:25	FBC 14:55
自民党 福井県議会	大和久米登 〔分割〕	知事および 関係部局長	1 テクノポート福井および福井港の現状と今後の活用 2 県北部地域の文化・観光の振興 3 地域高規格道路の整備 4 その他	15:25 15:55	
自民党 福井県議会	南川直人 〔分割〕	知事および 関係部局長	1 福井城社の将来を見据えた整備と県庁の新たなあり方 2 特別支援学校の課題と5歳児健診 3 六呂瀬山古墳群について 4 その他	15:55 16:25	16:20

目指す姿

世界があこがれる福井

（「躍動する福井」の推進により持続的な発展を図り、「世界があこがれる福井」を実現）

グローバルに展開し、国内外で福井の存在感を向上させるとともに、
県民自身が世界に誇れる福井を実感するよう、故郷（ローカル）の価値を高めていく ⇒ グローバルとローカルの両輪で推進

県政の 運営方針



全世代リスペクト

- ・若者躍動プロジェクト
- ・高齢者グッドライフプロジェクト



徹底した県民目線

- ・知事の現場実践プロジェクト
（実践、視察、意見交換等の実施）



発信改革

- ・「届く」「伝わる」情報発信
- ・情報リーチ戦略プロジェクト

政策の 強化軸

躍動福井のファーストステップ「3つのS」 ～スケール・スピード・サステナビリティ～

長期ビジョンおよび実行プランを継承しながら、「3つのS」に沿って取組みを強化

① スケール Scale

世界とのつながりを成長の原動力に、
世界の中の福井へ

世界に直結する福井ブランドの確立

- ・知事によるトップセールス（大使館外交等）
- ・世界にアピールする新ブランド戦略
- ・インバウンド+販路開拓+情報発信を
一体化した戦略的海外展開 など



世界を知り、活躍する人材の育成

- ・世界を知り、福井で活躍する人材の育成
- ・国際教育の充実
- ・AI人材の育成 など

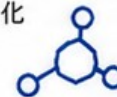


② スピード Speed

時代の変化をつかみ、
未来をさきがける福井へ

社会環境の変化に先手で動く福井へ

- ・地方発AX（AIを軸とした産業振興・
教育振興・行政改革）
- ・新経済プランの策定・推進（産業クラスター等）
- ・農林水産業、建設業などのスマート化
- ・GXの推進 など



現場の機動力を活かす「オールふくい」

- ・市町協働、官民共創の推進
- ・部局横断の「掛け算プロジェクト」
- ・情報発信強化（効果的なSNSの活用、
プッシュ型） など



③ サステナビリティ Sustainability

未来への投資が新しい価値を生み、
次世代へつなぐ福井

人口減少を見据え、社会をリ・デザイン

- ・行政サービスの効率化・最適化（県市町共同DX）
- ・安心安全な暮らしを支える基盤の強化
（防災、インフラ、交通、医療・福祉、地域コミュニティ等）
- ・福井のさらなる魅力向上（福井アリーナ整備、
若狭湾プレミアムリゾート構想等）
- ・嶺南地域の振興（エネルギーを活用した地域の活性化、
敦賀以西のまちづくり等） など



SWG（人と社会の持続的な幸福）の実現

※サステナブル・ウェルビーイング・ゴールズ

- ・子育て支援・教育の充実（ふく育県の推進、教育改革による地域みらい人材の育成等）
- ・障がい者・高齢者支援（複雑化する福祉ニーズへの対応、生活支援サービスの充実）
- ・若者躍動（定着・挑戦）、ミドル・シニアの応援（活躍の場創出、世代間交流等）
- ・関係人口の創出・拡大（ふるさと住民登録制度等） など



持続可能な福祉提供体制へのアップデート ～地域共生社会の実現に向けて～

人口構造の変化や人材不足が進む中、福祉提供体制そのものをアップデートし、障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる持続可能な体制をつくります。

1. 現状と課題

① 福祉ニーズの拡大

障がい福祉サービスは、この10年で大きく拡大



② 支え手の確保が年々厳しく

有効求人倍率の比較 (2025年)



求職者1人に対して
求人が4件以上

構造的な人手不足が続く

人手不足は構造的課題であり、福祉提供体制そのもののアップデートが必要です。

2. これからの福祉提供体制の将来像

行政が「全部支える」から、本人の力を引き出し、
地域全体で支え合う仕組みへ
地域共生の考え方を福祉政策の中心に



- 行政サービスへの過度な依存を避ける
- 本人の力を引き出し、社会参加を促進する
- 地域の中で、ともに支え合う関係づくり

3. 体制アップデートのポイント



予防・早期支援の充実

困りごとの早期発見・早期対応で、
重度化や長期化を防ぐ。



地域生活への移行・定着支援の強化

住まい・相談・生活支援を切れ目なく提供し、
地域での暮らしを支える。



多様な主体の参画と連携

行政・事業者・地域・当事者が役割を分担し、
協働で課題を解決する。



質の高いサービスの確保と生産性向上

人材確保・育成、ICT活用などにより、
持続可能で質の高いサービスを提供する。

危機が深刻化してから対応するのではなく、
今のうちから次の体制を構想していくことが重要です。

4. 具体的なイメージ(精神障がいの場合の一例)

～段階的に地域へ戻り、その人らしく暮らせる連続した支援の仕組み～



切れ目のない支援で、再発予防と安心した地域生活を支える

目指す姿

- 障がいのある方が、自らの力で生活し、社会とつながる
- 家族も安心して、長く支えられる
- 地域全体で支え合い、誰もが尊重される社会をつくる



持続可能な福祉の実現へ



福祉は、障がいのある方やそのご家族が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための土台です。
地域共生の視点で、持続可能な福祉提供体制をともにつくっていきましょう。

「ふくい衛星運用ネットワーク構築 (FUSION) プロジェクト」

・県内企業で衛星製造から運用まで
一気通貫の体制を構築



開発② 運用技術習得衛星

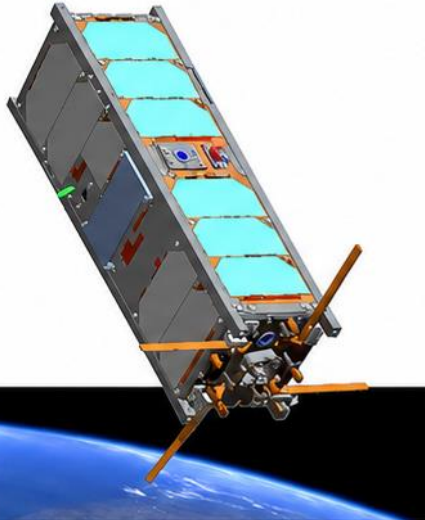
SEIREN

国立大学法人
福井大学

福井テレビ

Team
FUKUI

ArkEdge
Space



FUSION-1 WANCam (広域動画カメラ)
2025/07/30 @南アフリカ

X @FUSIONpFUSION1

開発① 運用技術習得ネットワーク

ArkEdge
Space

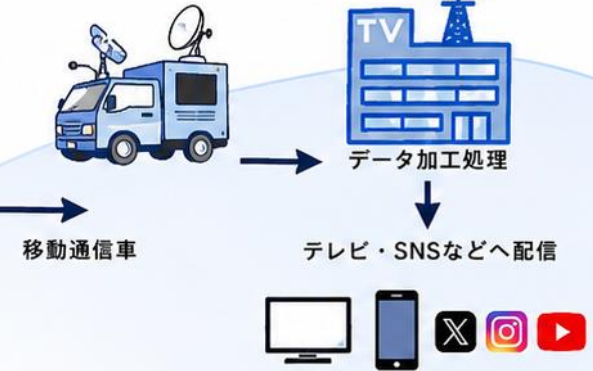
福井テレビ



衛星運用データ取得

福井工業大学
Fukui University of Technology

SEIREN



事業化による福井の宇宙産業領域の拡大

事業化① 200kg級衛星量産が可能な製造拠点への発展

小型衛星量産



先進研究開発
人材育成

国立大学法人
福井大学
UNIVERSITY OF FUKUI



サプライチェーン



さらに多くの参加企業が必要です！

事業化② 衛星データ利活用へのビジネス領域拡大

衛星データ利活用



さらに多くの実利用を拡大します！

事業化③ 次の10年へ

2015年～：これまでの10年

人工衛星ビジネス領域のバリューチェーンを全て経験し、事業拡大中



事業化①
小型人工衛星開発・製造・運用

事業化②
衛星データ利活用

2026年～：10年後のその先へ

事業化③

ふくいの技術が新たな宇宙のビジネス領域を加速

R7年度・R8年度 申込者数・受診者数（市町別）

地区	市町	R7年度		R8年度（第1期）	
		申込者数	受診者数	申込者数	受診者数
福井	福井市	46	37	112	
	永平寺町	1	1	0	
坂井	坂井市	16	15	20	
	あわら市	4	4	3	
奥越	大野市	0	0	2	
	勝山市	1	1	5	
丹南	鯖江市	20	18	29	
	越前市	6	6	13	
	池田町	1	1	0	
	南越前町	2	1	0	
	越前町	0	0	1	
二州	敦賀市	2	2	6	
	美浜町	0	0	0	
若狭	小浜市	3	3	5	
	高浜町	0	0	0	
	おおい町	0	0	2	
	若狭町	0	0	3	
合計		102	89	201	

福井県健康福祉部こども未来課提供

補助資料①

出典：HOT HOLIDAYホームページ



ジャイアンツ・コースウェイ

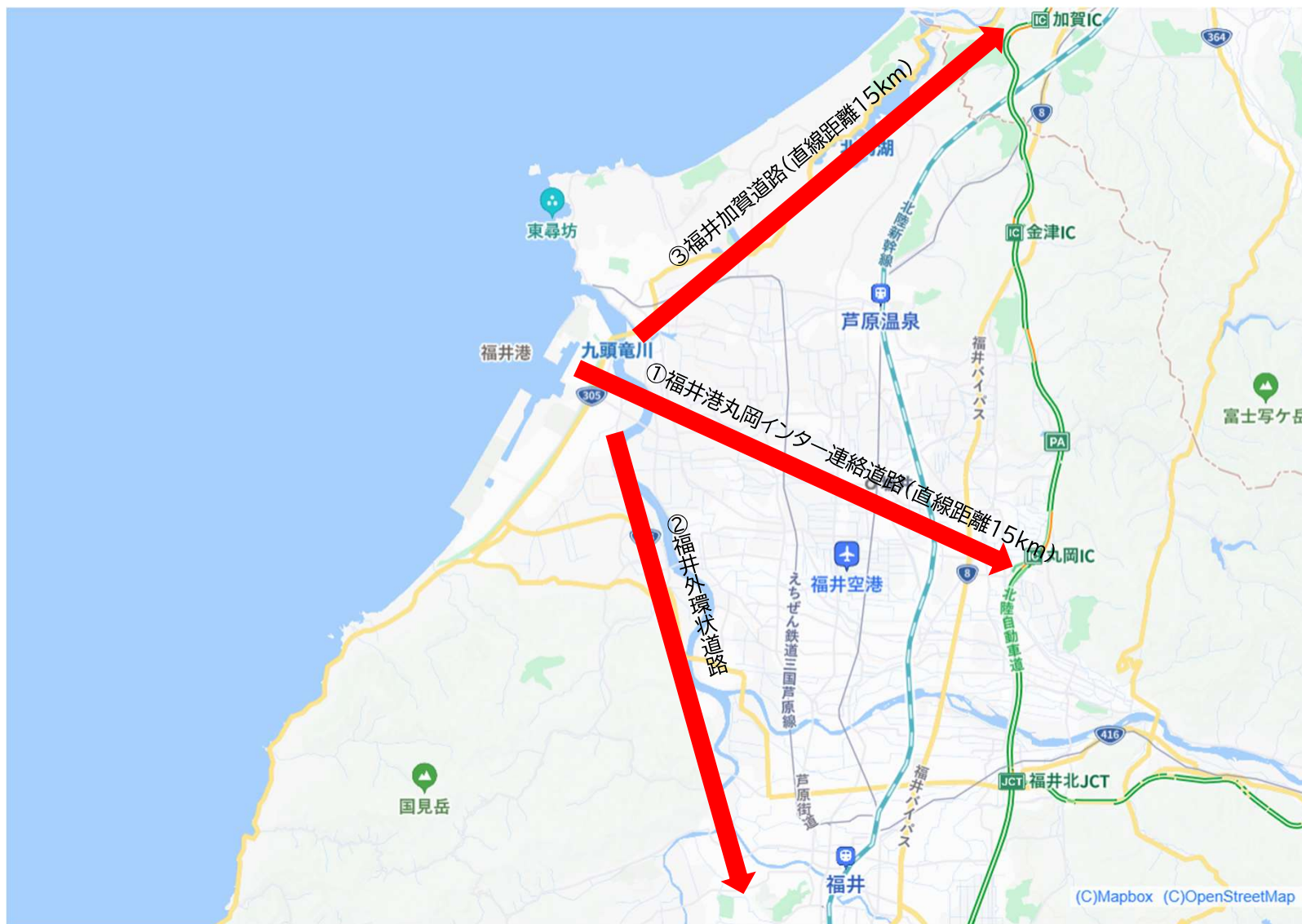
出典：坂井市ホームページ



東尋坊

補助資料②

出典：Yahoo! マップを加工



県庁のあり方そのものを見直す時代へ

一つの巨大な庁舎に集約する時代から、機能を分散し、つながり、ひろがる「ネットワーク型県庁」へ

従来の県庁（集約型） = 一つの巨大な庁舎にすべてを集める



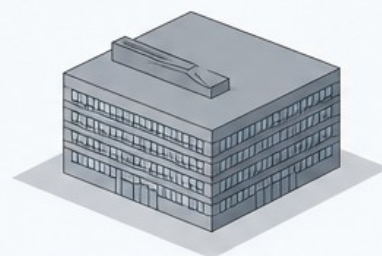
特徴

- ・一つの建物にすべての部署
- ・職員が同じ場所に出勤
- ・来庁型の行政サービス
- ・紙文書・対面手続きが中心
- ・庁舎の建設・維持に多額の費用

課題

- ・建設費・維持費の負担が大きい
- ・災害時のリスクが集中
- ・部署間の移動や連携に時間がかかる
- ・変化への対応が遅くなる
- ・県民との距離が遠い

イメージ図



一つの巨大な箱に、すべての機能を集約

行政サービスのイメージ



新しいイメージの県庁（分散・ネットワーク型） = 小さく・やわらかく・つながる県庁へ

福井駅周辺の既存ストックを活用し、機能を分散配置。建物をつくるのではなく、機能をつなげる。



県民に近い県庁
まちなかに機能を配置し、
県民が利用しやすい



柔軟で持続可能な県庁
変化に応じて機能を組み換え
やすく、将来に柔軟に対応



コストを抑えた県庁
既存の空きビル・空き店舗を
活用し、投資を最小化

分散配置のイメージ（福井駅周辺）



県庁の考え方

これまで

「県庁＝一つの建物」
に集約する発想



これから

「県庁＝機能の
ネットワーク」
として捉える発想

将来の姿

- ・ICT・クラウドでつながる
- ・オンライン会議・テレワークの活用
- ・県民はオンラインで多くの手続きが可能
- ・ドローンやMaaSなど新技術とも連携

行政サービスのイメージ（県民目線）



20年後・30年後の
福井を見据えた
新しい県庁の姿へ